

静岡発!! みんなで創る地域発電所

しずおか未来エネルギー

〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町12-5丸伸ビル2階
☎054-260-4414 <http://s-miraienergy.com/index.html>



「地域に住まうみんなで創る、地域のための再生可能エネルギー」をコンセプトに、NPOと地元企業で株式会社を立ち上げ、多くの市民が集まる象徴的な市有施設に太陽光発電を設置。資金調達には全国初の小口市民ファンドと、無担保無補償融資を取入れ、低炭素社会実現のため再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。加えて、幅広いネットワークを活かした環境教育等を実施し、普及・啓発にも力を入れています。



審査委員長コメント

しずおか未来エネルギーの取組の素晴らしいところは、産業界・学校・地方自治体・市民そして地元金融機関が連携し、それぞれが再生可能エネルギーの普及へ向けて貢献できることやノウハウを最大限に出し合っ、市民小口ファンドによる市民電力事業を形にしたことにある。

プレゼンテーションでもそのプロセスをわかりやすく見せたことも、多くの審査委員からとても共感でき、かつこれまでに無いもので大変大きく評価された。

また、停電時に自立運転で電気を供給でき、災害時の避難拠点としても機能できるなど、特筆すべきことである。

電力・ガス小売自由化時代へ向け、企業でも自治体でもない市民による第三のエネルギー会社のモデルケースとして是非とも今後の低炭素社会をリードして行って頂きたい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

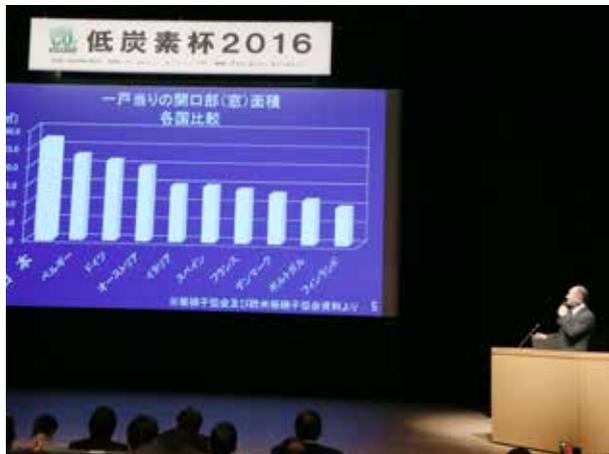
昼光利用による建築物の低炭素化の推進

タキロン

〒108-6031 東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟31階
☎03-6711-3722 <http://www.takiron.co.jp>



弊社にて開発・製造したポリカーボネート複層板を、建築物のトップライト・ハイサイドライトに大規模に利用することにより、昼光利用を最大化し、大幅な低炭素化に寄与しています。閉鎖的になりがちな工場・倉庫、防災機能を兼ね備えた体育館などの大規模建築物の明かり採りとして利用されています。



審査委員長コメント

タキロンの開発したポリカーボネート複層板の建築物への応用は、優れた断熱性のみならず外から多くの光を取り入れられることにより照明の電気も節約できる。

そのうえ軽量で地震にも強く、コスト削減効果もあり、かつ地域の防犯にも貢献するという、まさに一石四鳥、五鳥もの建築素材を開発、実用化したことは大いに評価できる。

とりわけ学校の体育館など災害時の避難拠点として停電時にも光をたくさん室内に取り入れられることは、今後とても重要な付加価値として様々な防災拠点への応用とその平時利用による大きなCO2削減効果が見込まれる。より一層の他の建築物への普及へ向けて防火対策などさらなる技術開発も期待したい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

低微生物を用いた未利用バイオマスの研究 ～地域で目指す実用化～

長崎県立諫早農業高等学校 生物工学部 新エネルギー研究班

〒854-0043 長崎県諫早市立石町1003番地

☎0957-22-0050 <http://www.news.ed.jp/isahaya-ah/>



平成 21 年度からバイオマス燃料の開発を目標に研究を開始し、平成 23 年度から長崎県環境保健研究センターの依頼により諫早湾干拓地のヨシからのバイオエタノール生成実験を行っている。平成 25 年度までにヨシに付着していた微生物によりセルロースの糖化、アルコール発酵に成功した。さらに現在は、生成したエタノールをバイオディーゼル燃料の触媒として実用化するための研究活動を展開している。



審査委員長コメント

諫早湾干拓地に多く群生しているヨシを守ることだけでも CO2 削減、水質浄化効果があるが、一方でそのヨシを守るためにはそのヨシの定期的な刈り込みが必要である。

長崎県立諫早農業高等学校 生物工学部新エネルギー研究班の取り組みは、このヨシからのエタノールの生成に成功したのみならず、それをバイオディーゼル燃料の触媒活用、さらにはその副産物で出てくるヨシの残査から和紙の製造に成功する等、地域資源活用、地域循環型まちづくりの実現へ向けたイノベーションの貢献は極めて大きい。

また、地域の幼稚園と連携した廃棄油回収活動など地域の多くの方々が参画する取り組みとなっていることも大きく評価できる。今後のバイオディーゼル普及への新展開としても期待したい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

柳月が目指す CO2 ゼロの菓子創り

柳月

〒080-0342 北海道河東郡音更町下音更北9線西18-2
☎0155-32-5566 <http://www.ryugetsu.co.jp/>



柳月では東日本大震災以降、増え続ける電力需要を賄い、万が一の緊急時にも工場を防災拠点として地域に提供し、かつ生産を続けることが可能なようにしたいという皆の創意から【柳月スイートピア・ガーデン太陽光発電所】を音更町 IC 工業団地内に 1000kW で建設しました。地元産の原料とクリーンエネルギーで安全なお菓子を創り、皆さんのご家庭に笑顔と真心をお届けするのが弊社の夢なのです。



審査委員長コメント

柳月は以前より地産地消のお菓子作りを実践してきたが、そのお菓子を作るエネルギーも再生可能エネルギーによる地産地消でまかなうゼロエネルギー工場実現へ向けた取り組みと大きく評価できる。

また北海道初のメガソーラーであるが、特に、雪国でのメガソーラーの課題である雪害を解決するための様々な取り組み、そして工場の省エネへ向けた様々な取り組み、従業員や地域住民を巻き込んだ省エネナビによる取り組みなどは特筆すべきである。

さらに今後カーボンオフセットを活用したモデルは新しい低炭素社会を波及させていくモデルとして大いに期待したい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

食品廃棄物を活用した 流通食品のロスを減らすための取組

米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448
☎0859-24-5158 <http://www.yonago-k.ac.jp/>



本取組は、食品の保存期間の長期化や品質保持に用いられる食品添加物に関する新たな提案として、卵殻膜の本来示す機能である中身を守る機能を卵以外の食品を守る機能として応用する取り組みである。我々は、卵殻膜の構造的な特徴を機能として取り出すことで、作物の着色劣化を抑える添加物を作り出し、実用化を視野に入れた劣化抑制効果として向上させるための研究等を行っている。



審査委員長コメント

これまで卵の殻の内皮から水素エネルギー社会へ向けた燃料電池の電解質膜をつくるなど米子工業高等専門学校 B&C 研究同好会の取り組みは大きな評価を得てきているが、同じ卵殻膜活用でも今回はこれまでとは全く異なる食品の劣化を防ぐ食品添加物の開発に成功したことは驚くべきことである。卵殻膜の本来の機能を廃棄後も活かすというとても画期的なものだ。

この技術で食品ロスが減ることによる CO2 削減効果、廃棄物削減効果は極めて大きい。

またこうした高校生の取り組みが、第一線の研究機関や全国規模の大手食品メーカーなどの研究開発にまで発展してきていることは同研究のレベルの高さを象徴しており、今後の実用化へ向け大いに期待するところである。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

教習所が発信するエコドライブ！ ～誤解を解き自主的な実践を～

ファインモータースクール

〒330-0804 埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-322-3
☎048-641-7185 <http://www.fine-motorschool.co.jp/>



免許の取得段階で自然とエコドライブが身につく「楽エコ教習」を基軸とし、小学校でのエコドライブ寸劇、教習所開放イベント、森づくり活動支援を通じた環境教育、中高生の職場体験、自治体職員向けのエコドライブ指導者養成、地域イベントへの出展、地元住民向けの無料出張エコドライブ講話、燃費管理ウェブサイトの運営など多様な取り組みを通じて、様々な人に向けてエコドライブの誤解を解き良さを伝える取り組みをしています。



審査委員長コメント

ファインモータースクールのプレゼンテーションを聞いた後の審査委員の感想は「これはもはや自動車教習所の取り組みをはるかに超えた画期的な取り組みだ」というものだった。

エコドライブの普及促進活動のみならず環境全般の教育を小中学校や地域のNPOなどと連携してターゲットごとに寸劇など工夫を凝らして展開しているのにはまさに脱帽である。

運転時のCO₂削減ポテンシャルはまだまだ大きいため、エコドライブ教習を日本で初めてスタートさせたファインモータースクールの功績は極めて大きい。

この取り組みが自動車教習所を出て地域へ、そして今後は是非とも全国へその日本のリーダーとしてさらにスケールアップして行って頂くことを期待している。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

「究極のエコ資材」

～被災地の緑化を目指す高校生の環境活動～

静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ

〒418-0073 静岡県富士宮市弓沢町732

☎0544-27-3205 <http://www.fugakukan-h.sakura.ne.jp/>

私達は被災地（宮城県鳴瀬川）の河口堤防の法面等（塩害・乾燥ストレス）を緑化するため、第3のエコ資材「AOHチップ」（「AHXチップ」の効果を上回る）を新たに考案・開発、被災地で検証、静岡県内・県外の環境保全を行った（二酸化炭素削減）。広報活動（チップの活用）にも力を入れ、津波被害を受けたサクラ（塩害）の樹勢回復を試みた。さらに、被災地のNPOと連携し、東北の幼稚園児にエコ授業を実施した。



審査委員長コメント

東日本大震災でのその津波被害の大きさは多くの犠牲者を生んだのみならず、復興にも未だに多くの難題が山積している。こうした状況を打ち破る可能性を感じさせる静岡県立富岳館高等学校 農業クラブでの日本初の塩害・乾燥に強い廃材を活用したエコ資材「AOHチップ」の開発及び実際の被災地での実用化は実に素晴らしい。

加えて、被災地のNPOと連携して被災地の幼稚園でこの取り組みに関する出前授業を行ったり、被災地の農業高校と連携した地域資源を活用した「AOHチップ」による緑化への展開を行うなど、被災した地元とのしっかりとした連携はとりわけ評価できる。

今後「AOHチップ」の役割はより一層増していくと考えられる。今後の普及に期待したい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

ミツバチとともに里山保全を目指して

広島県立油木高等学校 ミツバチプロジェクト

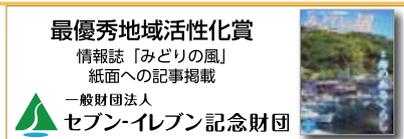
〒720-1812 広島県神石郡神石高原町油木乙 1965
 ☎0847-82-0006 <http://www.yuki-h.hiroshima-c.ed.jp/>

神石高原町はかつて養蜂の盛んな地域でしたが、海外から安い蜂蜜の輸入増加にともない里山の養蜂は人々の生活から遠のき、養蜂技術が失われました。そこで、地域活性化として、養蜂を復活させ、ミツバチの里として、花を育てることで里山保全と地域交流の場を作りました。高齢者でもできる養蜂を広め、実際に4件の家で始められ、花畑は6haまで広がり、今年からは花が咲く木を植樹する活動を行っています。

審査コメント

広島県神石群神石高原町において、かつて養蜂の盛んな地域が人口減少している耕作放棄地に花畑を作り養蜂技術を復活し、現在4軒で始められた花畑は6haまで広がり、今年からは花が咲く木を植樹する活動を行っています。高齢者でもできる養蜂を広めて、生産された蜂蜜は道の駅で販売されるだけでなく、地元ホテルでのスイーツにも活用されており、里山保全と生産される蜂蜜を使った活動が地域活性化の評価の点でした。

—— セブン-イレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人



知覧型木材循環システム～木をもらう→作る→贈る・育てる→～

鹿児島県立薩南工業高等学校 建築工作同好会

〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡5232番地
 ☎0993-83-2214 <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Satsunan/>

地元建設会社から産廃として廃棄予定の木材をもらい、製材し、木工の練習をしています。そこで出た廃材を使って幼稚園、小中学生に木工教室をおこなったり、公共施設やバス停、保育園などに木工品寄贈活動を行っています。また製材や加工で出た「おがくず」は子牛のベッドとして牛の畜産家へ、「木端」は薪割の困難な市民へ風呂焚き用薪として提供しています。予算が必要なく各々にメリットがある活動なので継続可能な取組です。

審査コメント

木材はその成長過程でCO2を蓄積する自然界にとって有益な資源ですが、住宅などを建築する際に端材が発生し、それらを焼却してしまうとCO2が排出されます。薩南工業高校建築工作同好会のみなさんは、建築現場等で出る端材を自らの木工技術の向上に役立て、さらに制作した木工品を寄贈したり、小・中学校で木工教室を開催したり、かなな屑を畜産家に寄贈し牛舎で使用いただくなど、廃材を徹底的に活用することでCO2排出を抑制し、かつ地域貢献されている点を高く評価しました。一連の活動は関係者全てに喜ばれる持続的な活動であり、大変素晴らしいことです。住まいと暮らしの総合住生活企業LIXILとして、このような建築に携わる若い世代の育成も支援したいと考えます。

—— LIXIL EHS 推進部 部長 川上 敏弘



学生を主体とした 大学の環境マネジメントシステム運用活動

千葉大学環境 ISO 学生委員会

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
☎043-290-3572 <http://env.chiba-univ.net/>

千葉大学の環境マネジメントシステム（以下 EMS）を担う公式な組織として、大学と連携した様々な活動を学生主体で行っている。省エネ省資源などの環境負荷削減の意識啓発や実践活動だけでなく、内部監査、環境報告書作成、研修講師なども担っている。また、NPO 法人としても活動しており、地域の子供達への環境教育や、企業と連携した環境事業、植物を通じた被災地支援なども行うなど、多岐にわたった活動をしている。

審査コメント

千葉大学の環境マネジメントシステム ISO14001は学生主体で運用しており、マネジメントの基本である PDCAが省エネ省資源などの環境負荷削減の意識啓発や実践活動、内部監査等に反映されしっかり運用されていました。

また、千葉大学では環境の知識や実務など様々なノウハウが学べる活動を、大学の授業として単位化し、低炭素化に実務的に取り組むことができる人材を育成しており評価すべき点だと判断致しました。今後、社会で活躍される学生として自らが主役であるという意識の高さ、実行力、未来への希望（環境負荷低減や地域小中学生への出張 Eco教室等）、地域に根ざした行動力を評価致しました。

発表では学生らしい緊張感がチャームであった事も考慮し決定致しました。

—— ユニ・チャーム CSR 本部 環境推進 G マネージャー 石村 令子

最優秀エコチャーム賞

ユニ・チャーム HP 内
での活動紹介



やしのきをつくる、やしのきでかえる。



小学生のアイデアを社会課題の解決に役立てる！「環境絵日記」

横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒221-0054 神奈川県横浜市神奈川区山内町 13 番地
☎045-444-2531 <http://www.recycledesign.or.jp/enikki/yokohama.html>

環境絵日記は、環境問題について子供達が家族で話し合ったことや自分で考えた内容を、絵と文章の組み合わせで自由に表現するものです。小学生とその家族と一緒に環境問題を考えることで、家庭単位での環境問題についての意識醸成のきっかけを作ります。また子供達が環境に対する正しい知識を身につけて「新しい環境意識」を育てていくことを願って、夏休みに横浜市内の子供達から募集し、特に優秀な作品については表彰しています。

審査コメント

今年から創設させて頂いたニトリ夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来をみんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。

受賞された横浜市資源リサイクル事業協同組合の取り組みは、単なるリサイクル活動の啓発のみならず、「環境絵日記」により未来を担う子どもたちが能動的に参加することで、自らが「こうありたい」と願う理想の街をより具体的に表現するものとなっています。

色鮮やかに描き出された子どもたちの自由で柔軟な発想が、環境問題だけにとどまることなく、弊社の目標でもある「豊かな暮らし」づくりの原動力となり、日本から世界へと広がっていくことを願っています。

——ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

最優秀夢・未来賞

ニトリ HP 内での活動紹介
及び記念品の贈呈



アヒル農法でホタル舞う水田環境を実現

愛知県立佐屋高等学校

〒496-0914 愛知県愛西市東條町高田39番地
☎0567-31-0579 <http://www.saya-h.aichi-c.ed.jp/>

最優秀エコガニック賞

「無限のほり米」一俵



「農薬を使いますか？アヒルを使いますか？」をスローガンに、私達は5年前から「アヒル農法」によるコメ作りに取り組んできました。農業の機械化と近代化の波により、私たちの心と体に深く染みこんだ生活様式と価値観が環境を破壊し、多くの生き物を絶滅に追い込んできました。世界的に食の安全・安心が脅かされている今だからこそ、私たちは多くの生き物を暮らしの中に受け入れていく「文化・環境」を再生する必要があります。

審査コメント

高等学校の生徒が地域と連携し「アヒル農法での米づくり」に挑んだ取組です。自然の力で生態系を取り戻して五年目、生徒さんのまっすぐな輝く瞳が未来を照らすようなすがすがしい発表でした。農薬、除草剤でホタルが消えた地域が見事にホタル蘇る地域に変貌させた活動はまさに「エコ」と「オーガニック」の同時実現を果たしております。この取組は私達の設定した「最優秀エコガニック賞」に最も相応しく、貴校に贈呈させていただく私達にとっても大きな喜びです。この取組を日本中の農業系高校が積極的に学び、水平展開される未来に大きな期待をさせていただきます。愛知県立佐屋高等学校の皆さん、本当におめでとうございました。
——ウジエスーパー 常務取締役 吉田 芳弘



歩いて発電、安全な路や階段！踊って発電、楽しいイベント！

音力発電

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 4489-105 慶應藤沢イノベーションビレッジ
<http://www.soundpower.co.jp/index.html>

最優秀わくわく未来賞

財団主催の環境講座
イベントへご招待



損保ジャパン日本興亜環境財団



既存の電力を全く使わず、振動力発電技術を利用した「発電床」の上を人が歩くことで自ら発電し、色鮮やかなLEDが点滅し、通行路を浮かび上がらせることができます。災害時や停電時に、迷うことなく非常口に導いてくれたり、夜間に通路や階段を安全に通行することができます。また、イベントで「発電床」の上でダンサーが踊ることで発電し、イルミネーション用のLEDがピカピカ点滅し、楽しさを倍増します。

審査コメント

損保ジャパン日本興亜環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来に繋がる心が弾むような取組みを応援したいと考えております。貴社の新動力発電技術は、もちろんそれ自体も素晴らしいものですが、人が歩くことで自ら発電し、色鮮やかなLEDが点滅するといった、まさに「わくわく」するような取組みと感じました。低炭素社会に向けた試みは、やはりこうした楽しみを盛り込むことで、持続性を持つのではないのでしょうか。またこの先の開発によって、身近な振動による発電を用いた大きな何かが期待できるかもしれない、貴社そのものの将来にもわくわくします。

——損保ジャパン日本興亜環境財団 事務局長 更井 徳子



One Goal One Smile ～笑顔の生まれる活動へ～

大阪府立長吉高等学校 サッカー部

〒547-0015 大阪府大阪市平野区長吉長原西3-11-33

☎06-6790-0700 <http://www.osaka-c.ed.jp/nagayoshi/index.html>

サッカーの試合で1点入れるごとに、1回の地域清掃活動を行っています。週に1回おこなうことを目標に、学校周辺の歩道、公園、最寄り駅の周辺や通学路でおこなっています。「長吉高校 Smile Cup」という中学生のサッカー大会を実施するなど、他の学校のサッカー部と連携しながら地道な地球環境保全活動を継続して行っています。

事務局コメント

低炭素杯にサッカー部の登場です。

活動を通して環境に関心を持つことができ、清掃することで地域の人たちと会話が生まれ、喜ばれることで笑顔が連鎖する。身近なところからできる取組みが、地域や他校を巻き込み広がっているすばらしい事例です。

当日のプレゼンテーションでは、「少年時代を過ごした公園にお返しをしたい！」このフレーズに心を打たれました。キャプテンのリフティングは会場をわかせましたね。

今後のさらなる笑顔の広がり期待します！

—— タカラトミー 連結総務人事室環境課 総務部環境課 課長 高林 慎享



パークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ II

大分県立玖珠美山高等学校 チーム野菜

〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町帆足160番地

☎0973-72-1148 <http://kou.oita-ed.jp/kusumiyama>

資源の有効利用、環境保全の観点から地元日田玖珠地域から大量に産出されるスギ樹皮パークを活用した循環型農場経営を学校あげて取り組むことにした。今回のプロジェクトは、単に「パークを使ってみる」だけではなく、パークを通して有機的に結びついた農場経営を提案し農作物の収量、食味、栽培方法の確立を行い、この地域に実際に定着させることができるかなどを科学的に検証し最終的には地域の農家へ提案しようと考えている。

事務局コメント

地域の特産にまつわる廃棄物を有効活用して、農産物の生育がよくなる農業資材を開発し、地元の農家で試験栽培が始まるなど、研究成果を地域と連携して実用化に向けて取り組んでいる好事例として評価させていただきました。次代を担う高校生が、学校での活動に留まらず、地元の産業振興につながる取り組みに、「最優秀学生チャレンジ賞」をお贈りします。今後、多くの農家の方々に活用されて品質のよい作物がたくさん収穫されることや、学校の後輩の皆さんにも引き継がれ、新たな発展がなされることを期待します。

—— キリン 執行役員 CSV 本部 CSV 推進部長 林田 昌也



TOKYO 油田 2017 プロジェクト

TOKYO 油田 2017 (ユーズ)

〒131-0041 東京都墨田区八広 3-39-5
☎03-3613-1615 <http://www.tokyoyuden.jp/>

最優秀ストーリー賞

雑誌「オルタナ」紙面への
記事掲載と冊子提供

alterna



使用済み天ぷら油を処理し、CO2を増やさないバイオ燃料などに再資源化しています。この天ぷら油エネルギー（バイオ燃料）は、独自に開発した植物油の軽油代替燃料：VDFで、車を走らせ、発電もできます。生活から出た食用油を地域に根差したネットワークを通して回収し、新たなエネルギー資源を生み出しています。再資源化することにより、生活環境の改善に貢献し、新時代のリサイクルプロジェクトに取り組んでいます。

事務局コメント

TOKYO 油田 2017(東京都)は、ユーズ(東京都墨田区)が2017年までに東京で使われた全ての天ぷら油を回収し、バイオディーゼル燃料化して有効利用しようというプロジェクトだ。一つの企業の事業活動だけではなく、たまプラザ地区(横浜市)やアースディ東京、目黒川のイルミネーションなど各地域でのエコ活動と連動し、市民の意識を高めるネットワークに成長してきた点が素晴らしく、「オルタナ 最優秀ストーリー賞」に選ばせていただいた。一方で、企業や住民の無関心、業界の既得権益という大きな壁が存在するのも事実で、これからも「壁を破る」ための努力を続けていってほしい。

—— オルタナ 代表取締役・編集長 森 撰



『庄内町町民節電所』事業

庄内町地球温暖化対策地域協議会

〒999-6601 山形県東田川郡庄内町狩川字笠山 444-9
☎0234-56-3360

最優秀地域・学校エコ活動賞

気象キャスターによる出前講座の実施

Weather
Caster
Network
気象キャスターネットワーク

毎年町の広報で募集をし参加者を募ります。参加者からは7月、8月と節電を頑張ってもらい、期間終了後電力会社の検針表を添付した報告を頂き、事務局で集計し、前年、前々年と比較し、使用量が少なければ節電達成世帯として顕彰します。参加賞として町で使える商品券を提供し商店街の活性化も図っています。また、ホテルの飛び頃には皆で手作りしたキャンドルで、ホテルキャンドルナイトを実施し楽しめます。

事務局コメント

全国に先駆けて設置された風力発電所だけに頼ることなく、節電の風を吹かせようと「町民節電所」と銘打って、町民の半数が参加する省エネ活動に広がっていることは大変素晴らしいです。また、子供たちの節電や節水の活動の他、参加者への副賞として地域活性化につながる商品券というのも、継続するためのよいアイデアです。一人一人の効果は小さいかもしれませんが、「がまんではなく自慢」をモットーにした庄内地域の取り組みが全国に波及することを期待しています。

—— 気象キャスターネットワーク 事務局長 岩谷 忠幸



消費者が建築に参加できる低炭素な家造り

スモリ工業

〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野 1 丁目 5 番地 9
☎022-254-2233 <http://sumori.jp>

「山からの一貫体制による家造り」は木材産地の工場では木材を最終段階まで加工、そのまま運搬、建築まで行う建築法。部材の現場加工がなく、組立のだけとなる為、簡単な研修で消費者も自らの家の建築に参加する事ができる。必然的に国産材 100%となり、現場廃棄物が極めて少ない。基礎はコンクリートなしのハイパーパイル工法。基礎までの解体再建築に対応した 4R 住宅。極めて高性能省エネ・低コスト。メンテナンス負荷も低い。

事務局コメント

スモリ工業の取り組みの画期的なところは、実に「全戸、全室」国産材活用を 17 年間継続してきているところである。これは年間 280 棟もの住宅を供給するような規模の企業ではなかなか出来ることではない。それを可能にした「山からの一貫体制の家づくり」は日本を代表する国産材活用のモデルと言えるだろう。加えて素材から家づくり、そして廃棄されるまで全てのプロセスで無駄がなく、これは結果として日本の森林を守るだけでなく、住宅ユーザーの方々にもコストパフォーマンスの良さとしてフィードバックされている。またこうした取り組みは大工さんの人手不足にも大いに貢献できる可能性のあるのに加えて、地場産業と互助の目的でこのノウハウとブランドが無償で提供されているなどの企業姿勢はまさに称賛に値する。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

オーディエンス賞
マクドナルド商品券



学童プレハブー 6℃作戦

子ども環境プロジェクト (学童プレハブー 6℃作戦)

〒700-0867 岡山県岡山市北区岡町 14-9 岡町ビル 202
☎090-7131-5672 <https://www.facebook.com/gakudoucool>

子どもたちの放課後や長期休業の生活の場である学童保育。岡山市の場合はその 6割がプレハブである。夏の暑さ、冬の寒さがとても厳しい上に、その改善に取り組む余裕がないのが現状である。運営者、保護者、地域コミュニティ、環境 NPO、地元中小企業がグループを結成し環境にやさしくローコストで、効果の上がる方法を考え、実施し、子どもたちにも環境教育をしながら、社会への問題提起をしている。

事務局コメント

子供環境プロジェクト (学童プレハブー 6℃作戦) のすばらしいところは、学童保育関係者のみならず、外部の企業や専門家、NPO などが協力し合いノウハウを出し合い、大幅な CO2 削減とともに子供たちの保育環境を劇的に改善させたこと。

そしてこうした取組を通じて子供たちへの環境教育にも繋がっていることにある。その困りごとを地域で解決している好例といえる。

さらに、継続性につながるゴーヤのグリーンカーテンのような取組を中心としていることも評価できる。これがきっかけで多くの企業などからの提案も出てくるなど波及性も充分で、今後の展開にも大いに期待したい。

—— 企画・審査委員長 金谷 年展

